

看護部－救命救急センター－

(スタッフ)

病床数 12 床 (ICU 4 床・HCU 8 床) で救急外来を含み、看護師長 1 名、副看護師長 3 名、主任看護師 2 名、看護師 34 名 (認定看護師 1 名) 看護助手 1 名で、3 名の看護師の異動があった。

(実施状況)

救命救急センターも開設後 3 年目に入り、病床稼働率は平均 70% 以上を維持している。重篤な患者を救命 ICU で集中管理し、その後救命 HCU で更に状態安定化すれば一般病棟へ転棟という入室から退室までの流れが確立してきた。またクリティカルケアだけでなく、脳卒中連携パスを積極的に使用することで転院・退院支援を強化するなど、幅広い救急看護を実践している。

1 セクション目標

- 1) 患者さんの病態にあった看護過程を展開し、プライマリナーズとして責任を果たす
- 2) レベル 3b 以上のアクシデントを防ぐ
- 3) 院内感染防止対策を周知徹底し、MRSA の発生を防ぐ
- 4) 患者・家族が安心して退院できるように連携強化を図る
- 5) 電子カルテの円滑な導入と運営ができる

2 活動内容と評価

- 1) 目標 1 について
 - ① 救急看護の専門性を高めるため、5 月より救命救急センターを 3 チーム (ICU・HCU・救急外来) に分けローテーションを開始した。10 月にも行い、特殊技術 17 項目の習得率は 79.4% と高値であり、今後も救命救急センター内のローテーションを継続する。
 - ② 特殊機器の技術や特殊な治療についてつい 1 回スタッフ主体で学習会を実施した。また研修参加も意欲的で、主に BLS への参加 2 名、ICLS 1 名、JPTEC 4 名、日本看護学会学術集会への参加が 5 名、日本臨床救急学会学術集会 2 名、(うち 1 名研究発表)、日本救急看護学会学術集会 1 名、救急医学会大分地方会での研究発表 1 題などがあげられる。院内研究発表は 4 題行った。
 - ③ 事例カンファレンスは昼のカンファレンス時に 5 回と事例検討会は、毎月第 3 水曜日に 1 時間程度 10 回 / 年実施した。理論を用いた事例検討で対

象の理解を深めることができています。

2) 目標 2、3 について

- ① レベル 3b 以上のアクシデントが 1 件発生し、0 件という目標は達成できていない。しかし、迅速に対応策をたてることで、その後の発生はなく、レベル 3a も 5 件と少ない。また急性期の治療が必要な、せん妄患者の多い救命病棟、緊急な処置が多い救急外来において、5 R の徹底とタイムリーなカンファレンスの継続、再評価の徹底と危険予測のアセスメント力を高めることが今後もアクシデントを防ぐことにつながると考えている。

3) 目標 4 について

- ① TQM 活動で作成したファイルを活用して転棟先がイメージできるように説明している。また担当看護師は転棟時に患者とともに病棟へ同行し、病棟看護師と環境調整をするようにしている。
- ② 脳卒中連携パスを含め、MSW 介入事例は 83 事例で増加しており、申し込み時期は 3 日以内 48%、7 日以内 28% で早期に介入できており、平均在院日数 7.9 日 (8.9 日) と短縮に効果をあげている。なお病床稼働率は 73.6% (72.1%) と昨年を上回った。

4) 目標 5 について

- ① 電子カルテの導入に向け、看護診断の学習会を月 1 回実施するとともに運用の統一を図るため、カンファレンスや電子カルテ関連ファイルを作り、周知徹底した。その結果、1 月 1 日の電子カルテ稼働であったが、大きなトラブルなく軌道にのりつつある。

(今後の方向性)

救命救急センター開設後、来院時心肺停止・多発外傷・薬物中毒・急性心筋梗塞・脳血管障害など重篤患者の受け入れが増加している。よって今後さらにドクターカーを使った DMAT 出動を含め、3 次救急医療機関として満足のいく対応ができるよう研鑽を継続していく。

(文責：上野千賀子)

救命救急センターの主な診療科入院数

